

戦前の日韓教会交流について

——聖ガブリエル教会の創立者
張準相 (チャンジュンサン) 師の足跡を中心に



2021年9月24日

井田 泉

はじめに

98年前 1923年9月1日 関東大震災

1974年以来、東京都墨田区で朝鮮人犠牲者の追悼式典が行われ、歴代の都知事は毎年追悼文を送ってきた。しかし今年も小池百合子知事は追悼文を送らなかった。

「民族的な差別意識などで虐殺された人は自然災害の犠牲者とひとくくりにせず、二度と同じ過ちを繰り返さない姿勢を示してほしい」

実行委の宮川泰彦委員長

今日は大震災を経験したひとり聖公会の方の半生をたどってみたい

——張準相（チャン ジュンサン）先生のこと



忠清南道公州 公山城
(張師の故郷の近く)

(あらかし)

1. 張準相師 誕生とその時代
2. 三・一独立運動への参加 1919
3. かつての一聖公会信徒の朝鮮観
4. 韓国併合 (1910)
5. 朝鮮聖公会併合論
6. 三・一独立運動 1919.3.1～
7. 洪曼姫さんの証言 1994
—— 聖公会信徒 洪淳福、独立運動に参加
8. 関東大震災 (1923.9)
9. 張準相と大震災
10. 張師の活動
11. 日本の戦争体制と植民地政策
- ♪ 鳳仙花
12. 1941年12月8日 張師、特高により逮捕、生野警察署に連行される

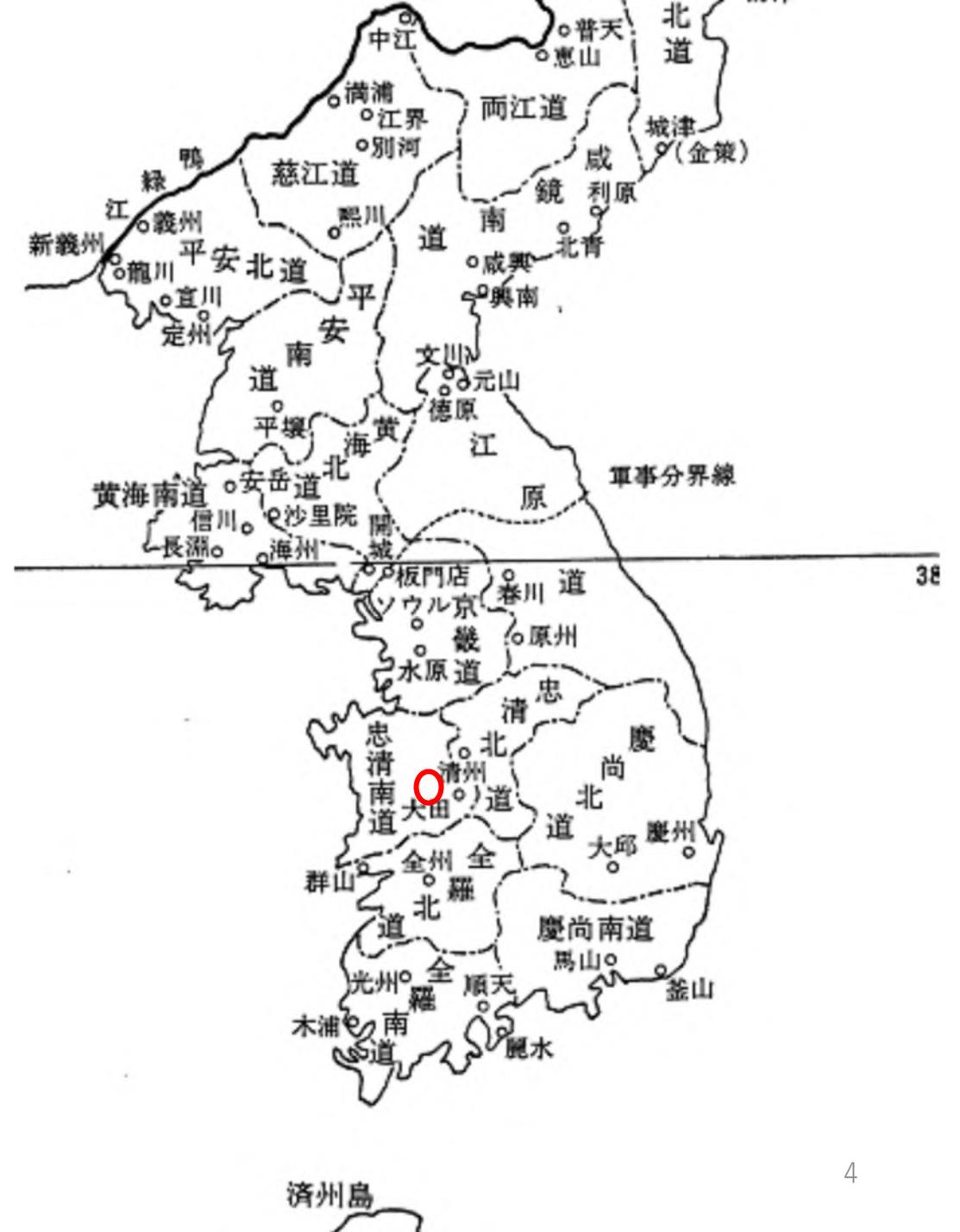
1. 張準相 (チャンジュンサン) 師 誕生とその時代

1900年 朝鮮忠清南道公州に生まれる
(右の地図赤印)

1904～1905年 日露戦争

1905年 日韓保護条約(第2次日韓協約)
韓国は日本の「保護国」とされ、
独立国としての主権を奪われる

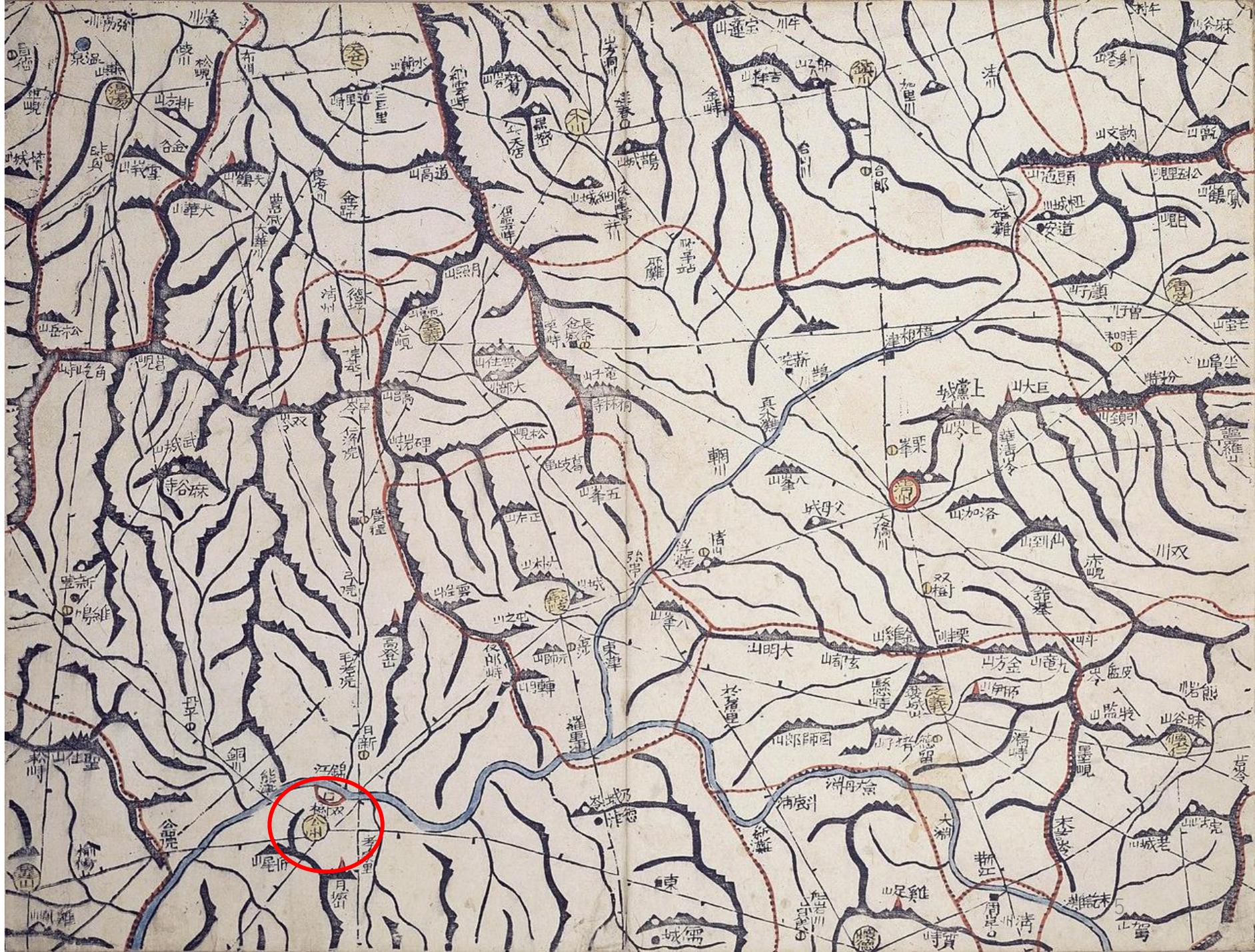
1910年 韓国併合
日本による植民地支配 (~1945)



公州（コンジュ）は
かつて熊津と呼ばれた百済
の都のあった所

右は1861に作成された
『大東輿地圖』の一部

公州は左下
近くを錦江が流れる



1872年の公州
北から見た図



2. 三・一独立運動への参加 1919

1916年 メソジスト教会(監理教)で受洗
渡日、郡山中学校(奈良)に入学

1918年 立教大学文学部予科に入学

1919年 独立運動参加のため朝鮮に戻る
独立宣言ビラを配布中に拘束され
6ヵ月間懲役に服する

～1920年 立教大学に復学

1923年 大阪聖パウロ教会でタッカー監督から
堅信を受ける(推薦者・吉村大次郎長老) 教名ヨハネ

3. かつての一聖公会信徒の朝鮮観

「釜山通信」 『基督教週報』 1907（明治40）年3月22日号

「……韓国人の蒙昧なる故なきにあらず候、之れ等は惟り韓国のために憂ふべきのみならず、我全胞は昨年十二月末の調査に於て八万人の移住者あり、隅ずみ隈々まで行き渡りて無教育なる韓人と雑居せる、彼等の子弟は釜山、京城、仁川其他の教会にありてこそ教育の機関も備はれ、田舎に入り込めるものゝ子弟に至りては終日空しく紙鳶を挙げたり、其他の韓人児童と全一に青鼻を垂れて飛び廻りて過ごすのみにて、韓人ならぬ韓人が漸く出来つてある次第に御座候、韓国経営の為め、若しくは国力発展の為めに犠牲となれる彼等子弟は、誠に気の毒千万に御座候（伊木氏報）」

4. 韓国併合 (1910)

韓国併合の詔書*

(*天皇が発して公示する公文書)

朕東洋ノ平和ヲ永遠ニ維持シ帝國ノ安全ヲ將來ニ保障スルノ必要ナルヲ念ヒ又常ニ韓國力禍亂ノ淵源タルニ顧ミ曩ニ朕ノ政府ヲシテ韓國政府ト協定セシメ韓國ヲ帝國ノ保護ノ下ニ置キ禍源ヲ杜絶シ平和ヲ確保セムコトヲ期セリ

爾來時ヲ經ルコト四年有餘其ノ間朕ノ政府ハ銳意韓國施政ノ改善ニ努メ其ノ成績亦見ルヘキモノアリト雖韓國ノ現制ハ尙未タ治安ノ保持ヲ完スルニ足ラス疑懼ノ念毎ニ國內ニ充溢シ民其ノ堵ニ安セス公共ノ安寧ヲ維持シ民衆ノ福利ヲ増進セムカ爲ニハ革新ヲ現制ニ加フルノ避ク可ラサルコト瞭然タルニ至レリ

朕ハ韓國皇帝陛下ト與ニ此ノ事態ニ鑑ミ韓國ヲ擧テ日本帝國ニ併合シ以テ時勢ノ要求ニ應スルノ已ムヲ得サルモノアルヲ念ヒ茲ニ永久ニ韓國ヲ帝國ニ併合スルコトトナセリ……

御名御璽*

明治四十三年八月二十九日

(*天皇の署名および押印)



黄玠（ファンヒョン）の自決

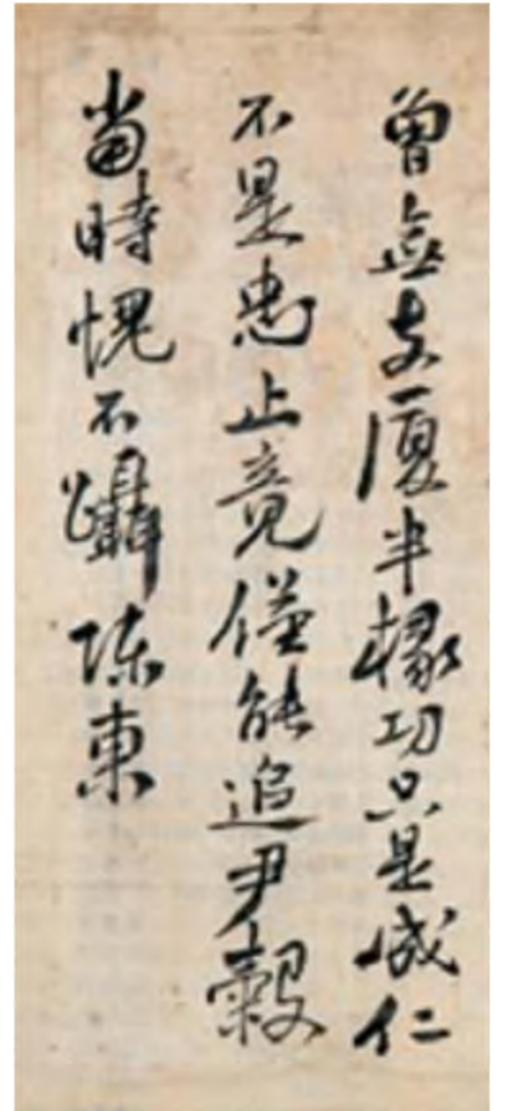
（1855年12月11日～1910年9月7日）在野の儒学者。
国が奪われたことに悲憤し、併合条約締結（公布）の1週間後、全羅南道求礼の自宅で服毒自殺。

絶命詩（辞世）

「かつて家（厦）を支えるにわずかな功もなく
忠ではなくただ仁をなすにとどまり
ようやく尹穀にならい
当時の陣東に及ばないことを恥じる」

尹穀は南宋が滅びるとき家族とともに殉死した人。
陣東は北宋の人で、国を正そうとして捕らえられさらし首となった。
黄玠は彼らの故事を引いて辞世とした。

この詩を掲載した『慶南日報』は停刊処分を受けた。



絶命詩 自筆

5. 朝鮮聖公会併合論

元田作之進「日韓合邦と聖公会」

『基督教週報』1910（明治43）年7月1日

「日本と韓国とが或形に於て合一せられたらんには、最早二国にあらずして一国なり、二の主権者を有するに非らずして、一の主権者を有する事となる。斯かる政体の下に於ては両国の聖公会も亦或形に於て合一の態度に出づべきは御最も自然にして双方の利益たらずんばあらずと信ずるなり。」

「此合一は双方の教会に何等の犠牲をも要求せずして其実を収め得べく、韓国全体を以て日本聖公会の一地方となし、監督ターナー博士を推して日本聖公会監督の一人となし、韓国伝道に特殊の事情ありとすれば、特別法規を制定して之に依らしむることを得べく、かくして両聖公会の有機的統一を図り得べきなり。」

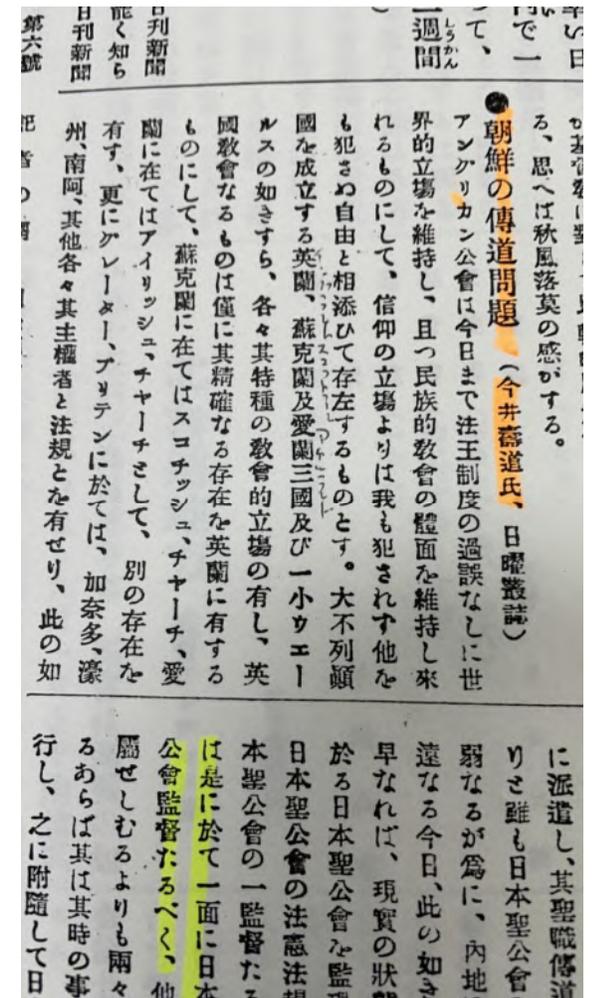


・今井寿道「朝鮮の伝道問題」 元田に反論

『基督教週報』1910年10月7日

「大不列顛國を成立する英蘭、蘇克蘭及愛蘭三国及び一小ウエールスの如きすら、各々其特種の教會的立場を有し、英国教會なるものは僅に其精確なる存在を英蘭に有するものにして、蘇克蘭に在てはスコチッシュ、チャーチ、愛蘭に在てはアイリッシュ、チャーチとして、別の存在を有す、

……此の如き実例及び此等の実例を生じたる主義によれば、朝鮮人の教會が朝鮮聖公会の名を以て、其自己の平安進歩の為に法規を造り組織を設備するに於て何の不可あるを見ず。」



6. 三・一独立運動 1919.3.1～



1910以来の日本の植民地支配に対し、1919年3月1日大規模な独立運動が起こった。

非暴力の独立示威に対し朝鮮総督府は武力による弾圧をおこなった。朴殷植『韓国独立運動之血史』によれば死者は7000人を超える。

キリスト教の参加が多く、数十の教会が官憲の焼き打ち等にあつたと言われる。

独立宣言書



ソウル・パゴダ（タプコル）公園での
独立宣言書朗読

（冒頭部分）

我等ハ茲ニ我朝鮮ノ獨立國タルコト及朝鮮人ノ自由
民タルコトヲ宣言ス此レヲ以テ世界萬邦ニ告ケ人類
平等ノ大義ヲ克明シ……

わたしたちは、わたしたちの国である朝鮮国が独立国であること、また朝鮮人が自由な人間であることを宣言する。このことを世界の人びとに伝え、人類が平等であるということの大切さを明らかにし、後々までこのことを教え、民族が自分たちで自分たちのことを決めていくという当たり前の権利を持ち続ける。

5000年の歴史を持つわたしたちは、このことを宣言し、2000万人の一人ひとりが心を一つにして、これから永遠に続いていくはずの、わたしたち民族の自由な発展のために、そのことを訴える。そのことは、いま、世界の人びとが、正しいと考えていることの実現のために世の中を変えようとしている、その動きをともに進めていこうという訴えでもある。

……

7. 洪曼姫（ホン・マニ）さんの証言 1994 —— 聖公会信徒 洪淳福（ホン・スンボク） 独立運動に参加



西大門刑務所

父・洪淳福ヨハネは1919年ソウル京城高等普通学校（現在の京畿高等学校）3年在学生でした。その時父は聖公会ソウル大聖堂に通う学生であり聖公会の構内にある聖母館寄宿舍の寮生でした。父は当時の事を次のように記述しています。

「学校の各学級代表者（私もその一人）の指揮に従い、全校生の大多数を率いてパゴダ公園に行き、その他多数の民衆と合勢して独立宣言文を朗読する声を聞きながら『大韓独立万歳』を声高く叫んだ。数万名の人の波が群を成してソウル市街を練り歩き、一日中独立万歳を喉がかれるまで叫びながら歩き回った。」

「私は日本の警察に連行され本町警察署に拘禁された。数日後そこから西大門刑務所に送られて、6か月間は予審の下に置かれ、後に判決を受けて6か月の懲役宣告を受けた。前後一年間刑務所生活をしたことになる。」

8. 関東大震災（1923.9）

今から98年前の9月1日

約10万人の犠牲者

根拠のないうわさ

→ 朝鮮人虐殺 6000人？



芋畑に逃げ込む朝鮮人

（当時本横小4年・山崎巖/高麗博物館HPから） 16

9. 張準相と大震災

1923年4月 張準相氏、堅信（大阪聖パウロ教会にて）

9月 関東大震災を経験（立教大学学生時代）
朝鮮人大虐殺の恐怖の中を東京脱出
奈良基督教会に吉村大次郎司祭を頼る

吉村司祭

「もし、あなたをだれかが殺しにきたら、
『この日本刀でまずわたしを殺してからにしろ』
と言ってやる」

吉村司祭をとおして張準相青年はキリストの愛を知る。
これを、苦難の中にある同胞に伝えたいと願い
伝道者として献身

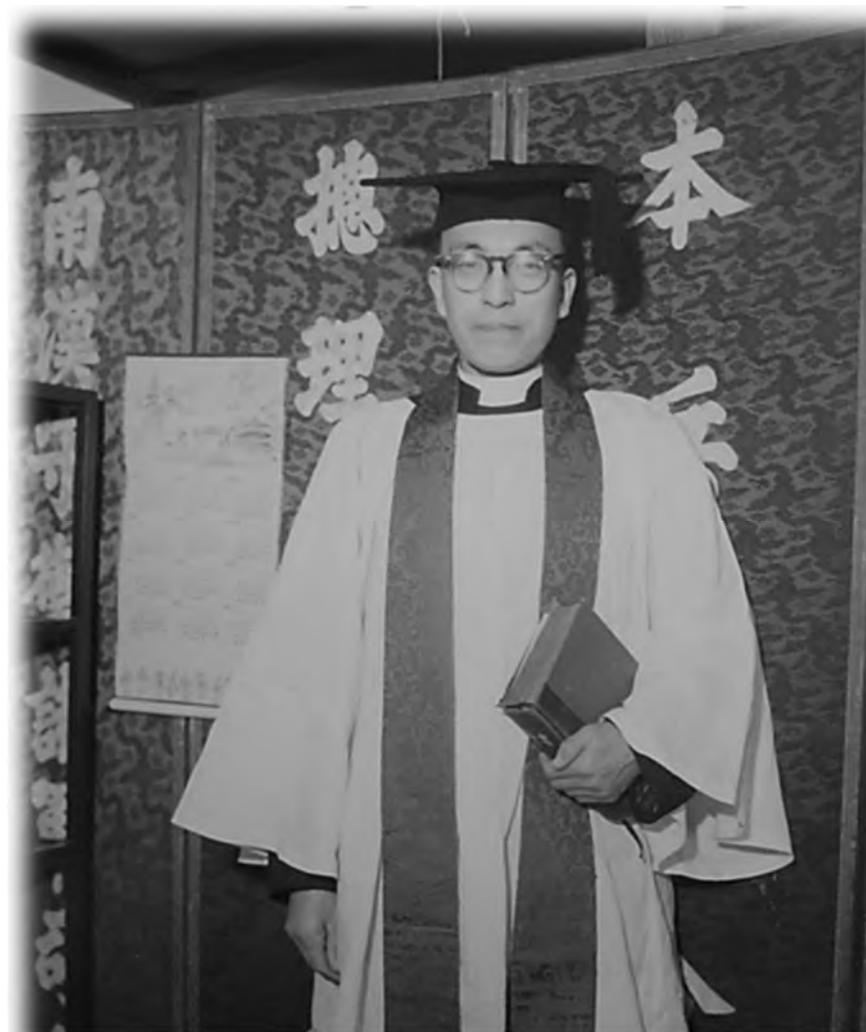
→ 福岡神学校へ



当時の奈良基督教会礼拝堂
（東向南町）



吉村大次郎司祭



後年の張準相（張本栄）司祭

奈良基督教会教籍簿

張準相

改 張本栄

「転出入」欄に
「大正十二年十二月十八
福岡神学校チャペルへ転出ス」

大正十二年 = 1923年

式 婚 結		戸籍 関係	父 母	職 業	現住 所	原籍 地	出 生地	生 年月日	番 號
保 護 人	同 原 籍 地								
			長男	學生	南 本 市 下 三 條 町	全 上	朝鮮忠南論山郡陽村面仁川里	明治三十四年一月二十七日	六五九 姓名 張準相 改張本栄
								子女 姓名	
式 葬		轉 出	信 徒		式 禮 洗		式 志 禮		
墓 地 番 號	式 年 月 日	司 式 者	式 場	年 月 日	推 薦 者	司 式 者	式 場	年 月 日	
				大正十二年四月十五日	監 督 夕 ワ カ ー	牧 師 關 李 周 周	朝鮮忠南郡美迎理會	大正八年九月十五日	
					長 光 吉 村 大 次 郎				

10. 張師の活動

1925年 福岡神学校を卒業後、堺聖テモテ教会に赴任

1926年 細工谷朝鮮人教会を始める
(聖ガブリエル教会の前身)
聖ヨハネ学園敷地内

1932年 桃谷講義所を開設



聖公会桃谷講義所 1932年



大阪朝鮮ミッション桃谷講義所献堂式 1933.1.22

『基督教週報』1933（昭和8）年2月24日号

大阪朝鮮ミッション桃谷 講義所献堂式

昭和八年一月廿二日（日）午後二時より大阪朝鮮
ミッション事業として、豫ねて東桃谷町三丁目
新築された同所に於いて、名川監督司式の下に嚴
かに舉行された。場所は已に開拓されつゝある幹
道交錯の衝に近く、附近に内鮮協和會もあり、朝
鮮同胞密集の中心地點でもあつて、本講義所の目
的にとりて實に最適の位置である。

式は正二時監督に次で深田横川松本柳原諸長老
張本傳道師チャンセルに入り

聖歌一四一番（内鮮兩語） 一同

聖書朗讀王上八〇（内鮮兩語） 張本準相

あり、使徒信經 主禱 監督の献堂祈禱、並に式
辭、朝鮮姉妹の鮮語獨唱と進み、内鮮協和會長大
阪府知事の祝詞（三木氏代讀）大阪教區常置委員長
深川直太郎氏、祝詞朝鮮聖公會主教セシル師祝電
披露あり、後張本氏流暢なる日本語を以つて答辭
を陳べ、横川長老祈禱、名川監督祝禱を以つて終
つた、來會者八十餘名

因に移轉新築費千七百餘圓は此の口迄に丁度與
へられた、一同不思議なる神の恵みを感じ、心
に本事業將來の爲め祈りつゝ午後四時同胞會衆の
手厚き記念品（寫眞二葉とお菓子一箱）を受けて
散會した。

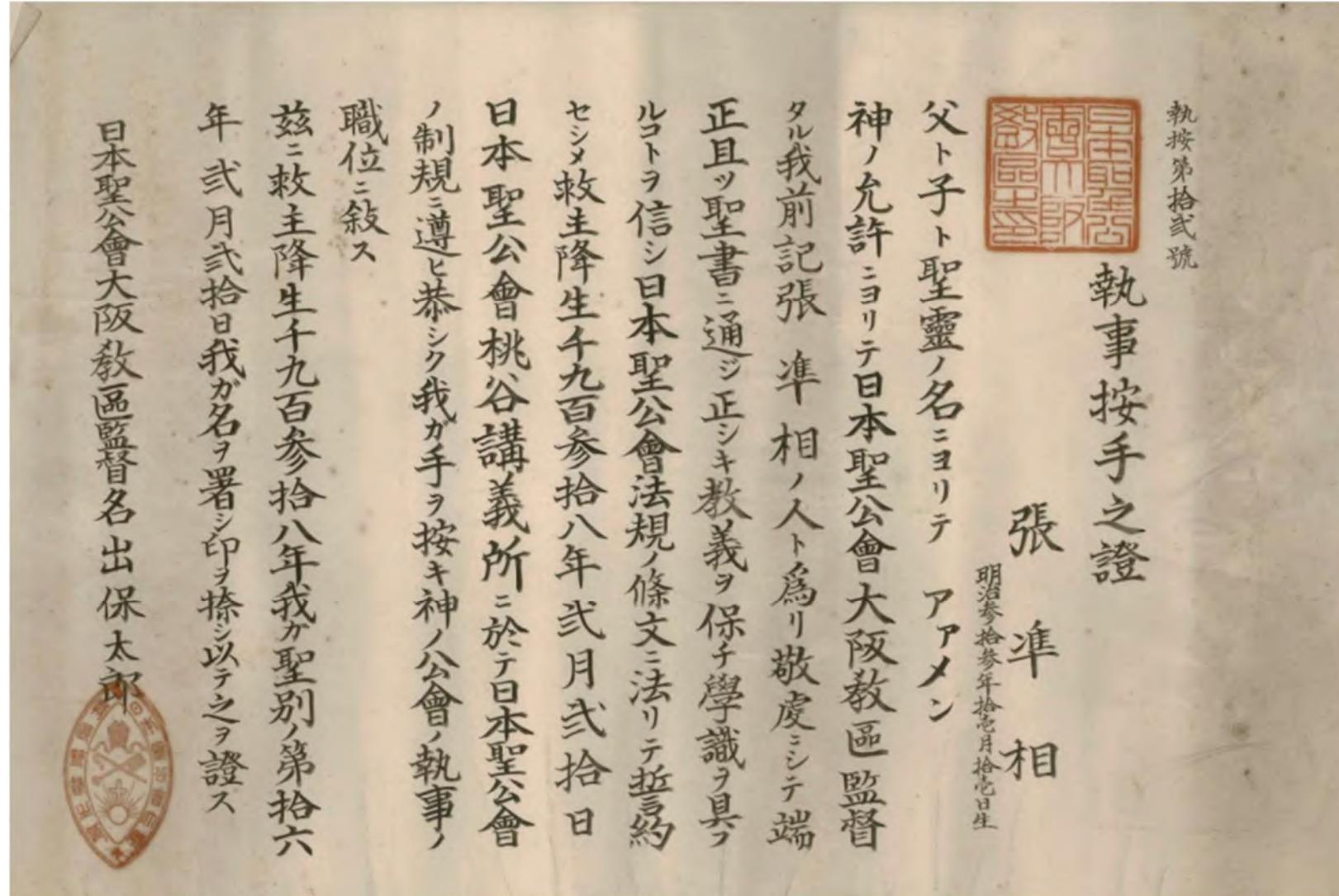
「……深田横川松本柳原諸長老
張本傳道師チャンセルに入り
聖歌一四一番（内鮮兩語）一同
聖書朗讀王上八〇（内鮮兩語）
張本準相

……朝鮮聖公會主教セシル師祝
電披露あり、後張本氏流暢なる
日本語を以て答辭を述べ、

※聖書はソロモンによる神殿奉
獻の箇所が朗讀されたと思われ
る。

11. 日本の戦争体制と植民地政策

- 1931年 満州事変
- 1935年 朝鮮のキリスト学校に対し神社参拝強要
(→崇実学校等廃校へ)
- 1937年 日中戦争始まる
- 1938年 張師、執事按手

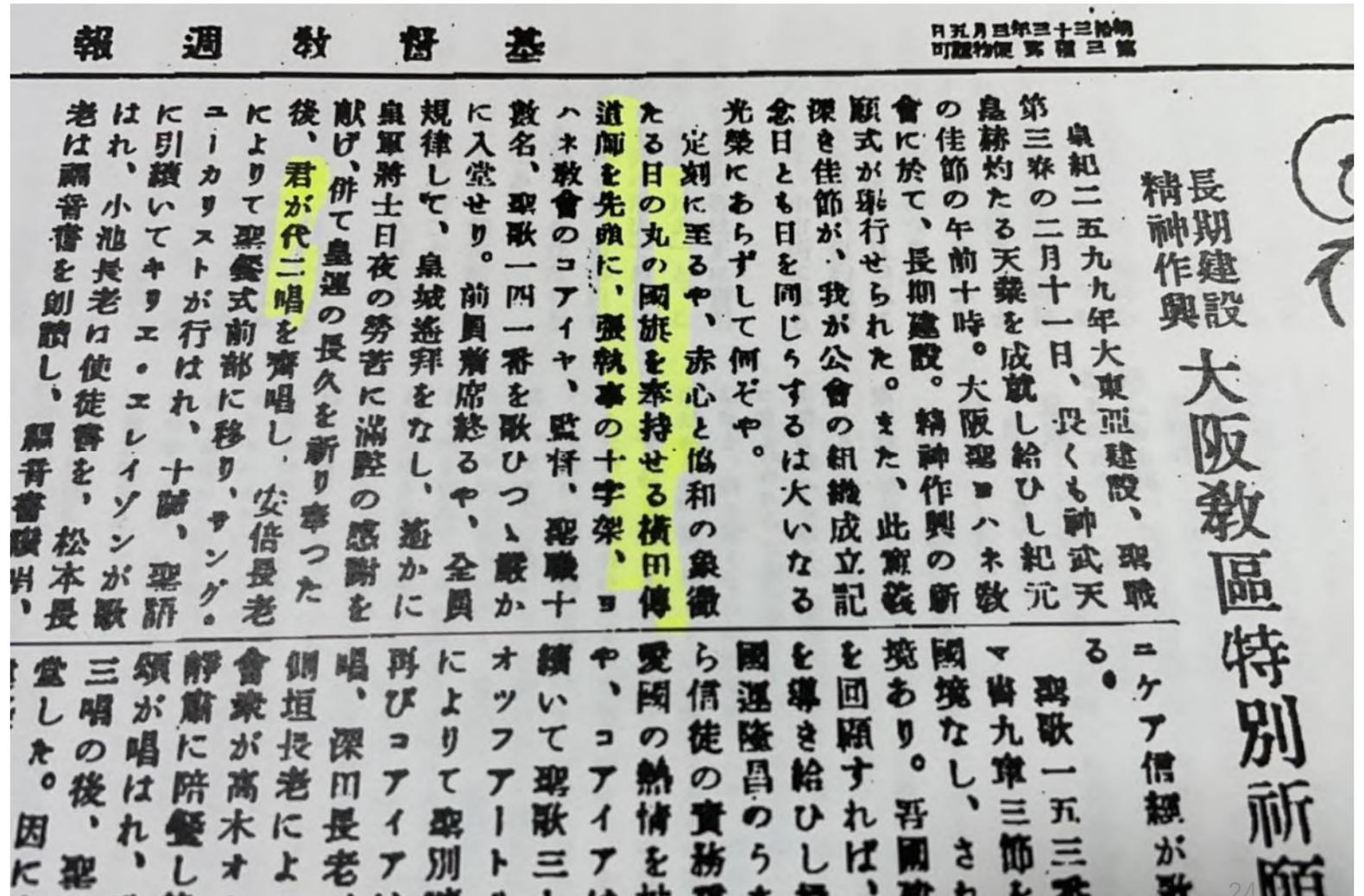


長期建設精神作興 大阪教区特別祈願式 1939.2.11

『基督教週報』1939(昭和14)年2月24日号

……定刻に至るや、赤心と協和の象徴たる日の丸の国旗を奉持せる横田伝道師を先頭に、張執事の十字架、……厳かに入堂せり。……全員規律して、皇城遥拝をなし、遙かに皇軍将士日夜の労苦に満腔の感謝を献げ、併て皇運の長久を祈り奉った後、君が代二唱を斉唱し、……

※同じ日、東京教区では「紀元節大礼拝」が行われた。



日本聖公会「紀元節祈禱」

天地の主なる神よ。主は往古より萬國を治召(しろしめ)し、その盛衰をつかさどり、稜威(みいつ)と栄光とを顕し給へり。殊に我國を恵み、建國の偉業を成就せしめ、今日に到らせ給へることを感謝し奉る。今、この佳節に方(あた)り、皇祖皇宗の威徳を懐ひ、宝祚の長久・國運の隆昌を祈り奉る。願くは國民拳(こぞ)りて責任の重きを感じ、祖先の忠誠を顧み、献身犠牲の精神に生き、只管(ひたすら)國威の発揚と共に、全世界の平和と・萬民の幸福に盡すことを得させ給へ。讃め稱ふべき救主イエス・キリストの御名に頼りて獻げ奉る。

アアメン

天地の主なる神よ。主は往古より萬國を治召し、その盛衰をつかさどり、稜威と栄光とを顕し給へり。殊に我國を恵み、建國の偉業を成就せしめ、今日に到らせ給へることを感謝し奉る。今この佳節に方り、皇祖皇宗の威徳を懐ひ、寶祚の長久・國運の隆昌を祈り奉る。願くは國民拳りて責任の重きを感じ、祖先の忠誠を顧み、献身犠牲の精神に生き、只管國威の發揚と共に、全世界の平和と・萬民の幸福に盡すことを得させ給へ。これら祈願を讃め稱ふべき救主イエス・キリストの御名に頼りて獻げ奉る。

1939年 「創氏改名」で
「張本榮（チャンボニョン）」
日本名では「ハリモトサカエ」と
なる

右は『基督教週報』
1939年10月20日号の「消息」欄

△スミス長老（大阪） 悪性貧血病に
て聖ルカ病院に入院、重態なりし
も徐々に恢復に向ひつゝある由、
御加禱を乞ふ。

△張本準相氏（京都） 戸籍上張本榮
と改名。

△今泉長老（新京牧師） 新京市錦町
四丁目二十一番地に轉居せらる。

△メイドレー長老（京都） 先年退職
加奈陀パンクーパーにて老後を養
ひつゝありし、元東北地方部の同
長老は氣管支炎に肺炎を併發、七
月廿二日永眠せられし由、哀悼に
堪へず。

快再び御活動の
を祈る。

△トレーパー長老
御尊父を失はれ
御見舞のため去
米、年内に御歸
△チャンセン姉（市
横濱出帆歐州經
途にありし青葉
ヤンセンはたま
ニヤ號（今次最初
便乗のため遭難
ドのゴールウエ

♪ 鳳仙花

作詞・金亨俊 (キム・ヒョンジュン)

作曲・洪蘭坡 (ホン・ナンパ)

1920年発表。1942年、ソプラノ歌手・金天愛 (キム・チョネ) によって広まる。

1. 垣根の下に立つ 鳳仙花よ おまえの姿は あわれだ
長い長い日 夏の季節に 美しく 花咲くとき
かわいい 女の子らが おまえを喜んで 遊んだ
2. いつしか 夏が去り 秋風が そよそよと吹いて
美しい 花ふさを むごくも 荒らした
花は落ち 老いてしおれた おまえの姿は あわれだ
3. 北風 寒雪 冷たい風に おまえの形が なくなっても
平和な夢をみる おまえの魂は ここにあるから
のどかな 春風に よみがえることを 願う



12. 1941年12月8日 張師、特高により逮捕、生野警察署に連行される

同じ日

昭和天皇による

「太平洋戦争開戦の詔勅
(米英両国ニ対スル宣戦ノ詔書)」

昭和16(1941)年12月8日

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル
大日本帝國天皇ハ昭ニ忠誠勇武ナル汝
有衆ニ示ス

朕茲ニ米國及英國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕力
陸海將兵ハ全力ヲ奮テ交戦ニ從事シ朕力
百僚有司ハ勵精職務ヲ奉行シ朕力衆庶ハ
各々其ノ本分ヲ盡シ億兆一心國家ノ總力
ヲ擧ケテ征戦ノ目的ヲ達成スルニ遺算
ナカラムコトヲ期セヨ

告布を戦宣に英米・國帝

西太平洋に戦闘開始 布哇米艦隊航空兵力を痛爆

宣戦の大詔渙發さる

【大本營陸海軍部發表】(十二月八日午前六時) 帝國陸海軍は今八日未明西太平洋において米英軍と戦
闘状態に入れり
【大本營海軍部發表】(八日午後一時)
一、帝國海軍は本八日未明ハワイ方面の米國艦隊並に航空兵力に對し決死的空襲を敢行せり
【情報局發表八日十二時四十五分】只今アメリカ、英國に對する宣戦の大詔が發せられ、また同時に臨
時議會召集の詔書が公布されました

詔書

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本帝國天皇ハ昭ニ忠誠勇武ナル汝有衆ニ示ス
朕茲ニ米國及英國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕力陸海將兵ハ全力ヲ奮テ交戦ニ從事シ朕力百僚有司ハ勵精職務
ヲ奉行シ朕力衆庶ハ各々其ノ本分ヲ盡シ億兆一心國家ノ總力ヲ擧ケテ征戦ノ目的ヲ達成スルニ遺算ナ
カラムコトヲ期セヨ
抑々東亞ノ安定ヲ確保シ以テ世界ノ平和ニ寄與スルハ不願ナラズ皇祖考承承ナル皇考ノ作述セル遠猷ニ
シテ朕力拳々措カサル所而シテ列國ト交誼ヲ篤クシ萬邦共榮ノ樂ヲ偕ニスルハ亦帝國力常ニ國交
ノ要義ト爲ス所ナリ今ヤ不幸ニシテ米英兩國ト鬪端ヲ開クニ至ルハ己ム得サルモノアリ豈朕力志
ナラムヤ中華民國政府發ニ帝國ノ眞意ヲ解セシ蓋ニ事ヲ構ヘテ東亞ノ平和ヲ擾亂シ遂ニ帝國ヲシテ干
戈ヲ執ルニ至ラシノ茲ニ四年有餘ヲ經タリ幸ニ國民政府更新スルアリ帝國ハ之ト尊隣ノ誼ヲ結ビ相提
攜スルニ至レルモ重慶ニ殘存スル政權ハ米英ノ庇陰ヲ恃ミテ兄弟尙未タ將ニ相聞クヲ悞ノ米英兩國
ハ殘存政權ヲ支援シテ東亞ノ禍亂ヲ助長シ平和ノ美名ニ匿レテ東洋制覇ノ非望ヲ逞ウセムトス刻ヘ與
國ヲ誘ヒ帝國ノ周邊ニ於テ武備ヲ増強シテ我ニ挑戰シ更ニ帝國ノ平和の通商ニ有ラユル妨害ヲ與ヘ遂
ニ經濟斷交ヲ敢テシ帝國ノ生存ニ重大ナル脅威ヲ加フ朕ハ政府ヲシテ事態ヲ平和ノ裡ニ回復セシメ
トシ國難久シキニ彌リタルモ彼ハ毫モ交誼ノ精神ナク徒ニ時局ノ解決ヲ遲延セシムテ此ノ間却ツテ
益々經濟上軍事上ノ脅威ヲ増大シ以テ我ノ屈從セシメムトス斯ノ如クニシテ推移セム力東亞安定ニ關
スル帝國積年ノ努力ハ悉ク水泡ニ歸シ帝國ノ存立亦正ニ危殆ニ瀕セリ事既ニ此ニ至ル帝國ハ今ヤ自存
自衛ノ爲ニ毅然起ツテ一切ノ障礙ヲ破碎スルノ外ナキナリ
皇祖皇宗ノ神靈上ニ在リ朕ハ汝有衆ノ忠誠勇武ニ信倚シ祖宗ノ遺業ヲ恢弘シ速ニ禍根ヲ芟除シテ東亞
水遠ノ平和ヲ確立シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全セムコトヲ期ス

御名 御璽

昭和十六年十二月八日
各國務大臣 閣署

二、帝國海軍は本八日未明上海に於て英砲艦「ベトレル」を撃沈せり、米砲艦「ウエイキ」は同時刻我に
降伏せり
三、帝國海軍は本八日未明新加坡を爆撃し大なる戦果を收めたり
四、帝國海軍は本八日早朝「ダバオ」「ウエーク」「グアム」の敵軍施設を爆撃せり

社説

帝國の對米英宣戦
The Emperor's Declaration of War Against the United States and Great Britain
The Emperor of Japan has today issued a declaration of war against the United States of America and Great Britain. This declaration is a direct result of the long and bitter struggle which has been going on since the beginning of the year. The Emperor's declaration is a clear and unequivocal statement of the Japanese position. It is a statement of the Japanese people's determination to defend their country and their way of life against the aggression of the United States and Great Britain. The Emperor's declaration is a statement of the Japanese people's confidence in their Emperor and their Government. It is a statement of the Japanese people's faith in their own strength and their own destiny. The Emperor's declaration is a statement of the Japanese people's love for their country and their fellow citizens. It is a statement of the Japanese people's desire for peace and stability in the East. The Emperor's declaration is a statement of the Japanese people's respect for the rights of other nations. It is a statement of the Japanese people's willingness to live in harmony with all peoples of the world. The Emperor's declaration is a statement of the Japanese people's hope for a better future for all. It is a statement of the Japanese people's faith in the future of their country and their world.

張師、100日に及ぶ拘留と拷問

「4ヶ月後、ようやく甥の権寧珠が海軍の一等無線士として付き添い、面会が許された。張牧師は、連行されたときのままの丹前姿で、下着のひざとひじが擦り切れ、ホホは紫に腫れあがり、頭髪は真中がむしられ、血穴の跡がたくさん残っていたという。後日、彼の語るところでは、手を首の後ろに回して組んだままの姿勢で正座をさせられたまま、たたかれたり、取り調べを受け、『天照大神とキリストの神はどちらが偉いのか』と詰問されたという。取り調べに疲れた警官たちは、碁をうって休憩をしたが、張牧師は同じ正座の姿勢のままであることを強制され大変な痛みと屈従を強制された。」

——宮嶋眞司祭「張準相牧師逮捕」から

(『日本聖公会宣教協働20周年大会 歴史資料集』2004.10.18 所収)

当時、大阪教区は張師を放置、ただひとり安倍 騰（のぼる）長老（大阪聖パウロ教会）が付近の道を太鼓を叩いて回り励ました、という。

1942年 礼拝・集会禁止
教会閉鎖

1945年8月15日

日本敗戦、朝鮮解放

1954年 張師、自宅を開放し
教会活動を再開

1956年 司祭按手

1966年11月4日 逝去



大阪聖愛教会前での司祭姿（前列右から4人目）

おわりに

ヘブライ人への手紙第13章

「¹兄弟としていつも愛し合いなさい。²旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使たちをもてなしました。³自分も一緒に捕らわれているつもりで、牢に捕らわれている人たちを思いやり、また、自分も体を持って生きているのですから、虐待されている人たちのことを思いやりなさい。」

